

としよしつだより

平成29年1月16日

六小図書室

あたら とし 今年は、まだ読んだことがない本にも挑戦！

今年もみなさんがたくさんのよい本にめぐりあえるとよいですね。新年をむかえ、読書でも自分の目標を立ててみましょう。現在、図書室の本の数は約1万冊以上。図書室にある本の中には、まだまだ感動する本がたくさんあります。みんなが図書室探検隊になっていろいろな本を探してみてください。さあ、本の宝探しをしましょう。新しい発見があるかもしれません。



図書室のお知らせ

2月の読書まつり



「どくしょつうちょう」で読書貯金をしてプレゼントをもらおう！

2月に読書まつりをやります。みなさん、「としよしつだより12月号」で紹介をした「どくしょつうちょう」をおぼえていますか？作って、読書貯金をすでにやっている人もいます。今回は、この「どくしょつうちょう」を六小のみなさんにプレゼントします。つうちょうの組み立ては、自分でやってみてください。図書室の本で「どくしょつうちょう」に読書貯金をします。つうちょうを全部使い終わったら、図書委員に確認してもらってください。すてきな読書まつり限定のしおりがもらえます。みなさん、たくさん本を読んでプレゼントをもらいましょう。

日時：2月中 20分休み・昼休み 場所：図書室



今回、読書まつりの読みきかせはありませんが、図書委員の発表の時にたのしい創作劇を企画しています。昨年、好評だった「本太郎」に続き、むかしばなしの創作劇です。図書委員のみなさんが、演技をしてくれます。たのしみにまっていってくださいね。

●今月は、期限内に本をきちんと返したクラスが残念なことにありませんでした。本のかえす日は、しおりにかいてあります。かりた本にかえす日のしおりをはさんで、かえすのをわすれないようにしましょう。みんなの本です。きまりをまもってください。よろしくお願ひします。



1月のおすすめの本

●きせつの本（おすすめの本コーナー）

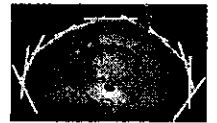


○お正月の本と絵本（分類番号：29地理，91～99文学）

お正月は、何をする月かな。何で「お正月」というのかな。行事の本や物語を読んでみましょう。アジア（中国・韓国・ベトナム・シンガポールなど）にもお正月があります。図鑑で調べてみましょう。国によっていろいろなお正月の過ごし方があります。おもしろいですね。世界の地理（分類番号：29）の棚を見てください。

【例】『国際理解ハンドブック』国土社（第1図書室）など。

○冬の本・絵本（分類番号：47植物，48動物，91～99文学）



寒い冬、動植物はどうしているかな？4類・自然科学の本や図鑑を見て調べよう！冬がテーマの物語。雪遊びの楽しい物語や感動する本。読んでみたら、きっと冬が好きになるかもしれないですね。

○今年は何年？～干支・酉（とり）年の本。



（分類番号：38行事，48鳥，81ことば，91～99物語）

今年は、酉（とり）年です。「酉」がテーマの本を読んでみよう。とり（鳥）は、なぜ「酉」と書くのでしょうか？「酉」は当て字で、「鳥」の意味はありません。「酉」という漢字は、お酒のつぼを描いたもので、お酒に関係する字に使われてきました。収穫した作物からお酒をとりだすという意味や、収穫できる状態であることから、「実る」ということも表します。そのことから果実がよく熟した状態を「酉」というそうです。

また、「とり」は「とりこむ」と言われ、商売などで縁起のよい干支です。よく11月になると、「酉の市」という言葉を聞いたことがありませんか？「酉の市」は11月の酉の日に鷲神社で行われるお祭りです。商売繁盛などを願うお祭りで、縁起物の熊手などを売る露店がにぎわいます。

「とり」が出てくる物語を読んでみましょう。どんなとりが出てくるでしょうか？いろいろなとりがいます。本をさがしてみましょう。

○日本の伝統遊びの本・絵本（分類番号：79娯楽，91～99文学）

昔の遊び。凧揚げ・こま回し・双六・かるたや小倉百人一首について
しらべてみよう。お正月の三が日を過ぎても、日本ならではの行事が続
く1月。日本の伝統文化を大切にしていきたいですね。



【正月の遊び】

古くから伝わる遊びには、「たのしくわらうことで厄をはらい、福を
まねきいれよう」という願いがこめられています。

- 凧…平安時代に中国からつたわりました。初めは、豊作をうらなう
ための道具、後には情報を伝える合戦の道具として使われ、江戸時
代ごろより、広く親しまれるようになりました。
- 羽根つき…江戸時代、女の子の成長を願って、羽子板を贈り物とし
て使うようになりましたが、今でも、その習慣がのこっています。
- こままわし…世界中に古くからあるおもちゃ。むかしは先のとがっ
た貝やどんぐりなどを使っていました。今のようなこまは、平安時
代に朝鮮半島の高麗から伝わり、高麗は「こま」ともいわれていた
ため、名前の由来になりました。



○日本の伝統芸能の本・絵本（分類番号：79娯楽，91～99文学）

日本に古くから伝わる「歌舞伎」「狂言」「能」など。写真でわかり
やすく解説している本もありますので、興味がある人は読んでみてくだ
さい。

○日本のむかしばなしをよんでみよう（分類番号：91日本の文学）



読んだあとになぜかやさしい気持ちになれる日本のむかしばなし…。
現在人気のある本もよいですが、むかしばなしも読んでみると、よい
かもしれませんね。みんなが住む館林にも有名なむかしばなしがありま
す。「ぶんぶくちやがま」という話です。知っている人も多いと思いま
す。堀工町にある茂林寺に伝わるお話です。茂林寺に行くとたぬきの像
があります。茶釜に入ったたぬきがお寺のおしょうさんの前で不思議な
ことをするお話です。伝説の茶釜も茂林寺に保存されているそうです。

6年生のみなさんは、日本の古典にも挑戦してみよう。



〈1月の作家〉 椋 鳩十 (1905年1月22日～1987年12月27日)

長野県生まれ。生家は牧場を営み、幼いころから動物に親しみました。法政大学卒業後、鹿児島で教師をしながら創作を続け、雑誌「少年倶楽部」で活躍しました。著書は『片耳の大鹿』『マヤの一生』『孤島の野犬』『大造じいさんとガン』など多数あります。『大造じいさんとガン』は、5年生の教科書にのっています。また「母と子の20分間読書」の提唱者としても知られています。



〈図書室にある本の紹介〉

『マヤの一生』…戦争を題材にした物語。家族の一員として育った子犬のマヤ。やがて戦争がはじまり、マヤは戦争の犠牲になります。とても悲しい物語。

『大造じいさんとガン』…5年生の教科書にのっています。ガンは雁とも呼ばれる渡り鳥です。このガンの群れのリーダーと年老いた猟師との知恵比べの物語です。

『片耳の大シカ』…この物語は九州の南にある屋久島の自然と、そこに棲息するヤクシカの習性、シカ狩りの方法などが書かれた興味深い作品です。その他、図書室には椋鳩十の本がたくさんあります。ぜひ、読んでください。

〈12月の図書の貸し出し数〉 どれだけ本を読めたかな？

12月の貸し出し総数は、3, 989さつでした。

〈2学期の図書の貸し出し数〉

2学期の貸し出し総数は、16, 862さつでした。

〈冬休みに読む図書の貸し出し数〉 どれだけ本を読めたかな？

12月19日(月)～12月21日(水)の3日間、本を一人5さつまで貸し出しをしました。

冬休みに読む図書の貸し出し総数は、1, 338さつでした。

みなさん、たくさん本をよみましたね。図書室のいろいろな種類の本を読んでみてください。図書室にはいろいろな本がたくさんあります。